

西江原 史跡顕彰會報

第 64 号
令和 3 年 8 月 10 日

会報第一号は昭和六十三年（一九八八年）三月二十九日発行

早雲公供養祭並びに 顕彰会総会について



本年度も恒例となつている「早雲公供養祭並びに西江原史跡顕彰会総会」を四月二十九日（金）「昭和の日」に法泉寺に於いて行いました。今年度も、コロナ禍で来賓を招いての早雲公供養祭は、中止としました。



顕彰会役員のみにて開催し、法泉寺本堂にて先納住職読経のもと顕彰会役員が焼香

敵かに法要が営まれました。落合清三会長は、今回の早雲公供養祭は役員のみでの開催については皆様方、ご理解をして頂きたい、今後コロナウイルス感染症が

皆さんと共に協調し協力しながら議題を求めて下さる会が出来れば一番いいのかなと感じています。そこら当たりのところを皆さん方と協議をしたいなと思っています。その中にはいるのが長い間、実は、ボランティアガイドを作りたいと思いついてみたいなと思っています。

二年、三年で終息するのか、もつと四年、五年続くのではないかとも思っています。そうした意味で本来の顕彰会の在り方を見つめ直したらどうか、と考えるべきではないかという時期にきているようにも思われます。更に会員数も減少していますし、行事も画一的でそれ以上の進展がない。それにもう一つは史跡顕彰会がなにをすればいいのか、我々の先輩から預かった大切な財産をただ継続して来ただけであつて、それを見つめ直す時で新たに顕彰会の在り方、これにたざさわつた方、先生方のご意見を、重視し、尊重しながら皆さんと共にその行事を作っていく形を取らなければいけないのではないかと思うし、将来的にもこれを継続していくならば、もつと充実した会になればいいかなと感じています。

中々作れなかつたボランティアガイドを作つてみたいなと思っています。というのが西江原再発見という冊子を作つた時の内容を、顕彰化していただくやっぱりそこへ入っている皆さん方が生きがいをもつた形で会員として活動して下さっている、それがその人の力となつて後の人達に継続が出来るような形でやってきているので我々もそんな事でガイドをやらなければ地図も出来上がっていますし、地元西江原で三十ヶ所位な処をガイドが出来るのではないかと思います、そうかと言つても、誰でも簡単にはできません。

ただ北条早雲とか、那須与一公あたりは出来るかも知れませんが、学芸員の皆様方に協力を得ながら参加していただくかも知れませんが、そこら当たりの事を考えて下さればありがたいなと感じています。

そう言う意味でこの二年、三年のコロナだけではなくもつともつと恐らく続くのだろうと考えるながらコロナとの共存という生き方を考えなければならぬ。だろうな、その中で此処におられる、皆さん方が生き生きとした活動の仕方あるいは

将来的にはボランティアでのガイドをやつて行きたいなと思うし面白いかなあ、皆さん方の生き甲斐にもなるし、そのところを考へて将来の史跡顕彰会のビジョンを皆さん方で考へて下さればありがたいな、と思ひを話されました。

「出前教室」

訂正とお詫び

西江原史跡顕彰会会報第六十三号(平成三年四月五日発行)の四ページ、二段目の猪原完治氏の記事に不備があり全文を削除し、左記のように訂正して加筆をしていただきました。編集者の手違いであったことをお詫びいたします。

『二橋家江原陣屋六代目代官・友山勝次の産物交易場所と新町(西新町・本新町・東新町)の取立て一橋家とは、八代將軍吉宗の四男宗尹が江戸城内の一橋門内に私邸を立て一橋を名乗ったのが始まりです。

御三卿の一つです。御三卿とは吉宗が初代家康の御三家に倣い徳川安泰の為に分家したのが田安家・一橋家・清水家九代家重が父吉宗に倣い分家したもので共に十萬石の賄料です。

一、一橋藩江原陣屋はいつできたか

文政一〇年(一八二七)備中国三郡の三万三千五百石余りの六十四カ村が一橋領になり木ノ子村に仮陣屋(庄屋・平木家屋敷内)が創られました。文政十二年九月一七日(一八二九)西江

原村字館跡(森長直西江原藩二萬石の館跡)に「江原陣屋」が創られた。

江原陣屋は文政一〇年(一八二七)から明治二年(一八六九)まで九代八人の代官で約四十二年間存続した。

二、六代目代官・友山勝次という人の事蹟弘化四年十月(一八四七)〜安政五年八月(一八五七)まで、約九年十一カ月間の在職事蹟

★嘉永六年(一八五三)阪谷朗蘆という学者を館長に招き、郷校興讓館の開校。

★安政元年(一八五四)陣屋が高機(たかはた)の貸し出しを行い木綿生地(たかほた)の賃織りを奨励

★西新町・東新町の取立て・産業振興

○安政(一八五四〜一八五九)の当時、山陽道筋には七日市宿・今市宿(間宿)・江原新町の(今の本新町)町場があったが衰退して、当時の一橋領の村々の百姓は年貢(税金)上納の時期になると、最寄りの他領の市町や湊町(福山・笠岡)へ、穀物や諸産物を持ち出して売り払い換金していた。町場の諸商人はお互いに申し合わせて勝手に相場を決め、百姓の足元を見て買いたたき、或いは金銀の比価(交換レート)をごまかして暴利を得たから、一橋領民は大変難儀していたといわれる。

○そこで、友山代官は、領民がこのような難儀をするのも、領内にしつかりとした交易場がないためと考え、産物交易場所の設立を思い立った。産物交易場所とは、領内の百姓が作った穀物・諸産物(さば)を売り捌き、日常必要な品を調達する諸品流通の要となる場所のことです。

○また、新しい町づくりには商人・職人の誘致が一番であるが、そのためには彼らが住まいして商売ができる借家を用意する必要がある、代官は郡中の村役人や主な百姓に新町に借家を立てる家主を募集した。

○また牛馬市もつくられた。これは代官所の勤めではなく新町の者が願ったものであると言われている。

○安政五年(一八五八)領内で通用する銀札(紙幣)の発行

結果、わずか一〜二年で玉島並びに笠岡湊、ご領地内より四二種類、約五十軒の間屋が三カ所の町場に移住して開店したと言われている。その他にも諸商人が開店した。その後も町場は繁栄したと言われている。

★安政四年(一八五七)日芳橋の架橋長さ二十丈(約二十、二メートル)巾一丈二尺(三、六メートル)七日市の「日」と芳井川の「芳」を取って「日芳橋」と命名された。

これらすべての事業に領内の庄屋、有力者が協力して行われています。官民一体の事業であったと思われる。

後月郡志、井原市史I通史編
西江原史跡顕彰会会報参照

「西江原八十八ヶ所巡り」へのご案内

今年度は次のように予定しています。大勢の皆様のご参加をお願い致します。

- 尚、都合により変更があります。詳細については回覧でお知らせ致します。
- 期 日 令和三年九月二十五日(土)
- 集 合 西江原公民館駐車場
- 参加費 五百円(保険・飲み物等)
- コース 一 番札所(法泉寺から二十一番札所(正雲寺)まで
- 詳細については後日参加希望者を募ります。



令和2年度(2020) 事業報告と会計決算書

月日	行 事	内 容
3月1日(日)	総務役員	早雲公供養祭・総会に向けて諸準備について
4月26日(日)	顕彰会総会 (西江原公民館)	早雲公供養祭中止変更の案内を(来賓の方々へ) 総会中止 役員のみで決定確認した。 令和2年度事業報告、会計報告について・・・承認 役員9名 令和3年度事業計画並びに予算案について・・・承認
5月/	顕彰会会費徴収	5月末までに各地区理事が集金の上 JAはれの国岡山井原北支店へ 納入
7月3日(金)	役員会(公民館)	与一公追善法要並びに袖神稲荷大祭について 秋の研修旅行について 総務役員 参加者 9名
7月30日(木)	会報発行	西江原史跡顕彰会会報第62号 町内全戸配布 1600部印刷
8月	那須与一公追善法要	与一公追善法要並びに袖神稲荷大祭中止の案内を配布
9月26日(土)	史跡顕彰会出前講座	公民館集会室 第一回講演 首藤ゆきえ氏 渋沢栄一と井原 (はつらつ学園協賛) 参加者38名
10月17日(土)	史跡顕彰会出前講座	公民館研修室 第二回講演 高田知樹氏 西江原の古墳 参加者21名
11月15日(日)	小管城址草刈り作業	小管城進入路と小管城址の草刈り作業 参加者20名
11月28日(土)	史跡顕彰会出前講座	公民館集会室 第三回講演 柳沢綾子氏 西江原の文化財 参加者23名
令和3年3月	会報発行	西江原史跡顕彰会会報第63号町内全戸配布 1600部印刷
12月10日(木)	協賛行事 その他 西江原小学校	西江原小学校の依頼による(出前教室) 会長 落合清三 理事 猪原完治 法泉寺 先納いづみ様 生類憐みの令 一橋家代官所 伊勢新九郎

収入の部

科 目	予算額	収入済額	差引額	摘 要
1 会費	210,000	192,000	-18,000	1,000円×192人
2 負担金	300,000	0	-300,000	会員研修 コロナ禍のため取止め
3 補助金	20,000	20,000	0	井原市委託金(小管城址草刈) 20000円
4 繰越金	435,000	435,917	917	前年度繰越金
5 雑収入	35,000	4	-34,996	貯金利息 4円
合 計	1,000,000	647,921	-352,079	

支出の部

科 目	予算額	支出済額	差引額	摘 要
1 会議費	110,000	768	109,232	役員会費 768円 総会はコロナ禍のため取止め
2 事業費	322,000	0	322,000	
3 印刷費	200,000	77,000	123,000	会報印刷費(第62号) 77,000円
4 施設費	200,000	0	200,000	
5 繰出金	20,000	20,000	0	小管城址草刈委託料与一会計へ
6 雑費	70,000	35,603	34,397	市観光協会費 3,000円 "北条早雲没後500年遠忌法要記念写真(R.元.11.30)" 20,000円 香料(法泉寺) 5,000円 印刷、コピー代 3,527円 郵送料 336円 用紙等 3,740円
7 予備費	78,000	0	78,000	
合 計	1,000,000	133,371	866,629	

収 入 合 計	647,921
支 出 合 計	133,371
差引残額(次年度繰越額)	514,550

令和3年度 事業計画と会計予算書

月 日	行 事	内 容
4月29日(金)	早雲公供養祭 並びに顕彰会総会 (法泉寺にて)	早雲公供養祭並びに西江原史跡顕彰会総会は、コロナウイルス 感染予防の為、顕彰会役員のみで実施予定 令和2年度事業報告、会計報告について 令和3年度事業計画(案)、会計予算(案)について
5月	会 費 徴 収	5月末までに各地区理事が集金の上 JAはれの国岡山井原北支店へ 納入
8月	会 報 発 行	西江原史跡顕彰会会報第64号 町内全戸配布 1600部印刷
7月	役 員 会 (公民館)	与一公追善法要・袖神稻荷神社夏季大祭について (袖神稻荷奉賛会共催)
8月	与 一 ま つ り	与一まつり実行委員会・袖神稻荷奉賛会と共催
9月25日(土)	お 大 師 め ぐ り	西江原四国88ヶ所巡礼 一番札所靈山寺(長谷山法泉寺境内)～二十一番札所大龍寺 (袖神稻荷奉賛会協賛) 正雲寺境内)
10月 11月	役 員 会 (公民館)	与一公追善法要・袖神稻荷神社夏季大祭の決算報告(仮)
令和4年2月	会 報 発 行	西江原史跡顕彰会会報第65号 町内全戸配布 1600部印刷
	協 賛 事 業 西江原興学会主催 そ の 他	ふるさと探検 顕彰会関連備品の整備 顕彰会関連施設の新設及び点検補修

収入の部

(単位 千円)

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会 費	195	210	-15	1,000円×195人
2 負担金	0	300	-300	研修参加費 7,500円×30人 お大師めぐり 500円×40人
3 補助金	20	20	0	小菅城址草刈(井原市委託金)
4 繰越金	514	435	79	前年度繰越金
5 雑収入	26	35	-9	御芳志、貯金利息等
合 計	755	1,000	-245	

支出の部

科 目	本年度予算額	前年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	60	110	-50	総 会 費 50,000円 役員会費 10,000円
2 事 業 費	0	322	-322	秋季研修 0円 お大師めぐり 0円
3 印 刷 費	220	200	20	会報印刷費(3回)
4 施 設 費	260	200	60	説明板等
5 繰 出 金	20	20	0	”小菅城址草刈委託金 与一公追善法要会計へ”
6 雑 費	70	70	0	早雲供養祭 30,000円 市観光協会費 3,000円 事務費等 37,000円
7 予 備 費	78	78	0	
合 計	708	1,000	-292	